

豊かな学びの創造のために

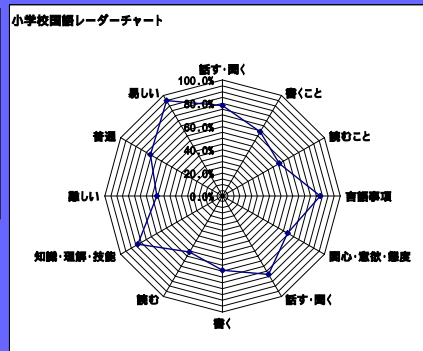
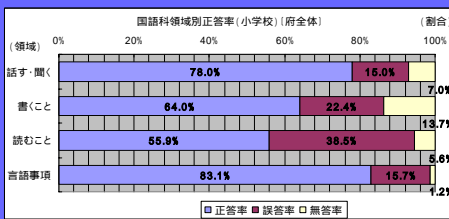
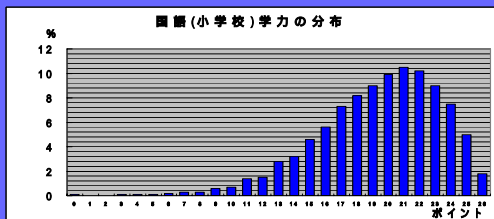
平成18年度大阪府学力等実態調査の分析結果から

課題と改善の方向

平成19年3月 大阪府教育委員会

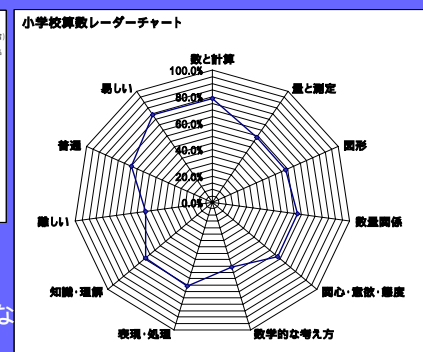
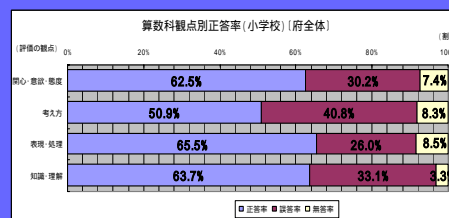
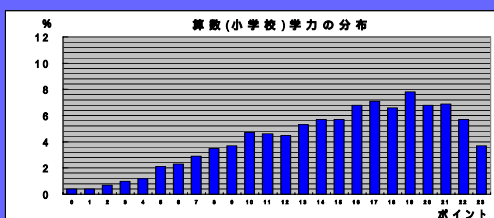
平成18年度 大阪府学力等実態調査

小学校 国語 得点上位層が多い・「読むこと」「書くこと」に課題



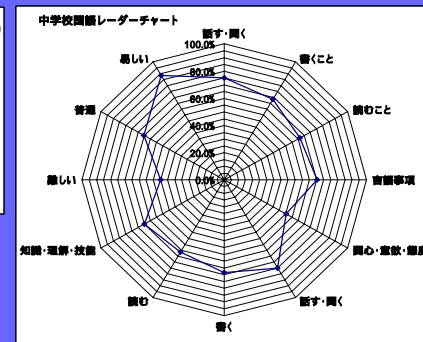
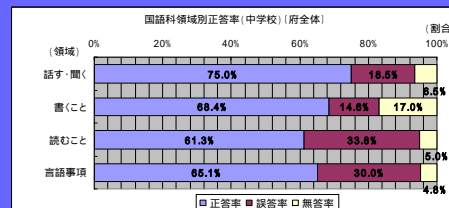
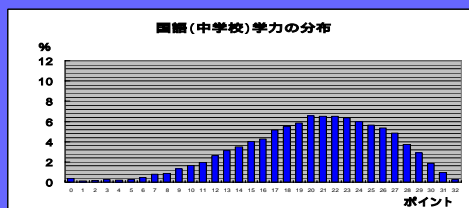
- 同一問題の範囲内においては、概ね前回調査時の学力を維持している。
- 学力の分布は、得点上位層に集中する傾向がある。
- 領域・観点では「読む」の正答率が低い。また、「書く」では無答率が高く、児童にとって「書く」ことに対する抵抗感が見られる。

小学校 算数 分布はなだらか・「数学的な考え方」に課題



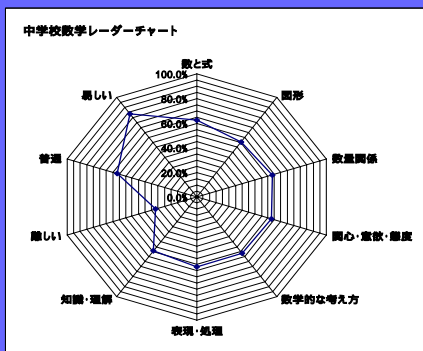
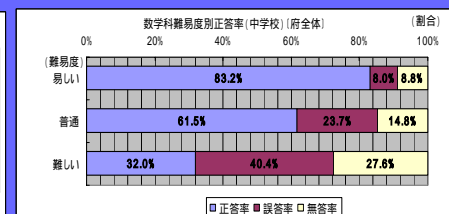
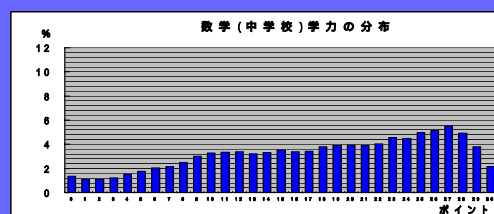
- 同一問題の範囲内においては、概ね前回調査時の学力を維持している。
- 学力の分布は、得点上位層が多いが、下位方向に向かってなだらかに広がっている。
- 簡単な計算や基礎的・基本的な内容は概ね定着しているが、観点において「数学的な考え方」で正答率が低く、論理的な思考力に課題がある。

中学校 国語 「書くこと」の無答率の高さ・「読むこと」が課題



- 同一問題の範囲内においては、前回調査時の学力を上回っている。
- 学力の分布は、小学校の分布傾向と同じであるが、分布の集中の度合いは緩やかに広がっている。
- 領域・観点では、「読む」が最も正答率が低く、「書く」では最も無答率が高くなっており、課題である。

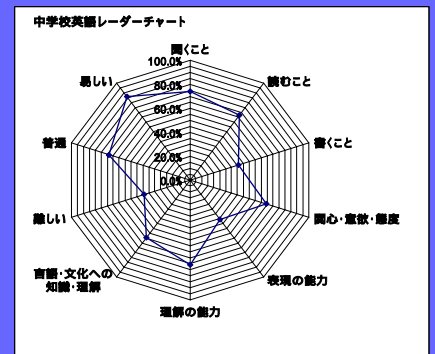
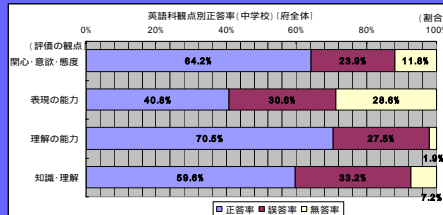
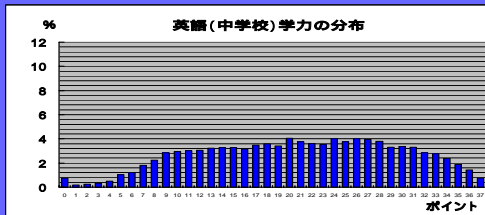
中学校 数学 分布は分散傾向・「難しい問題」で無答率が増加



- 同一問題の範囲内においては、前回調査時の学力を下回っている。
- 学力の分布は、上位層が多いものの、集中はしておらず、全体に拡散傾向が強い。
- 正答率は領域や観点別よりも、むしろ、問題個々の難易度により、左右される傾向があり、「難しい」での正答率の低さ、無答率の高さは顕著である。

学力調査・生活調査の概要

中学校 英語 分布は全学力層に拡散・「表現の能力」に課題

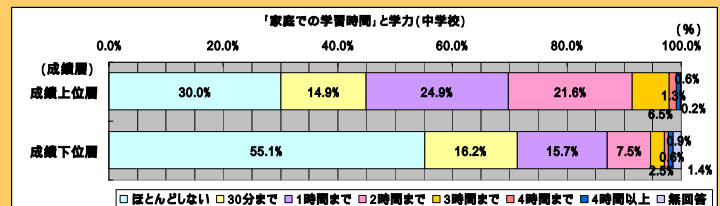
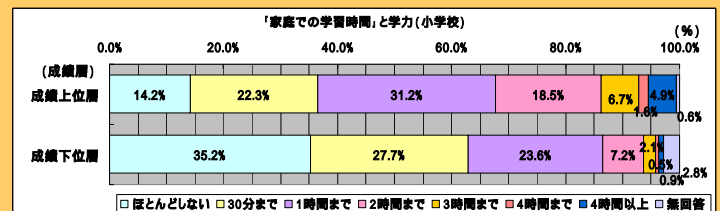


- 同一問題の範囲内においては、前回調査時の学力を上回っている。
- 学力の分布は、得点下位層から上位層まで拡散しており、生徒個々の学力に差が生じていると推測される。
- 観点では、「表現の能力」が課題で、最も正答率が低く、無答率が高い。

生活調査 生活習慣・家庭学習は、学力形成の大きな要因

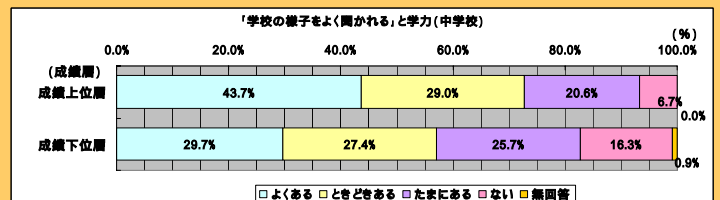
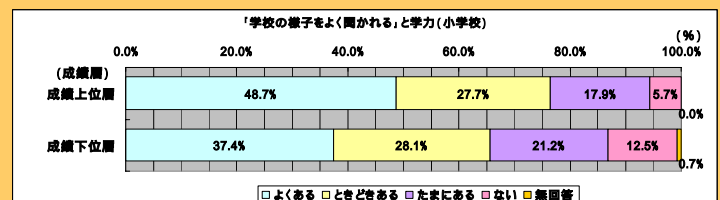
家庭学習の時間と学力

- 小学校も中学校も家庭学習の時間と学力の間には明確な相関関係が見られた。家庭学習の習慣付けを含め自学自習力の育成を更に推進する必要がある。
- 小学校から中学校に移ると、家庭学習をほとんどしない生徒の割合が大幅に増加し、特に成績下位層においては50%を超えている。中学校において、家庭学習の計画的な進め方等を指導する取組みの推進や、学校からの課題の与え方の改善を図る必要がある。



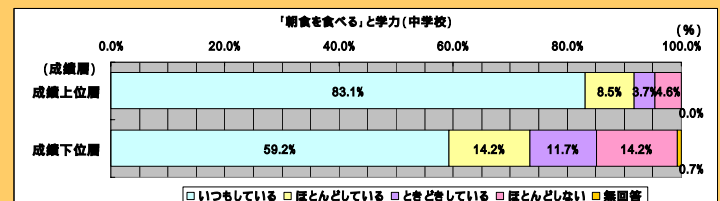
家庭で学校の様子をよく聞かれる

- 「よくある」と回答している割合は、成績上位層の方が高い。
- 常に、学校のことに関心を向けられている児童・生徒は、学校や勉強のことを意識するのか、学力が高いと言える。
- 保護者の子どもの学校や子ども自身に対する関心の高さと学力の関係を捉え直すこともできる。
- 地域・保護者に対する「開かれた学校づくり」の必要性がここに見られる。



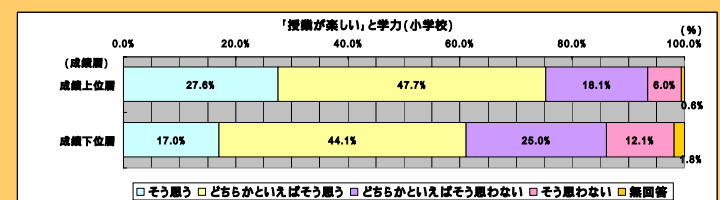
朝食を食べる

- 中学校では、「朝食を食べる」と学力の間に明確な相関関係が見られた。中学校段階で朝食を取ることも含めた生活習慣付けが出来ており、日常生活において自立が出来ている生徒が学力が高いといえる。



授業の楽しさ

- 小学校では、「授業の楽しさ」と学力の間に明確な相関関係が見られた。小学校における「楽しい授業づくり」は、学力向上には重要な要素といえる。



課題 小・中学校国語では「読む力」「書く力」に課題

- 文章に表現された言葉や段落の意味・役割など、作者の表現の工夫や意図を読み取る力が弱いと言えます。
- 文章の部分を全体との関係で捉える、また、全体と部分との関係で捉えるなど、文章構造を読み取らせる授業の改善が必要です。

改善 教材や発問、教材提示の工夫で授業が変わる

「文章内容の読み取り」の授業

「文章構造の読み取り」の授業

- 説明的な文章においては、筆者の問いかけや序論・本論・結論の組立て、段落相互のまとめりや接続語等の表現に留意し、文学的な文章においては、その作品のさまざまな構造やしかけについて、十分な教材分析を行い、系統的な指導を行うことが重要である。

教材の工夫「学習プリント」

登場人物の心の動きの理由を言葉から丁寧に読み取ることができるような工夫をする。

- 登場人物の心の動きを視覚的に捉えやすい心情グラフなどを活用する。
- 登場人物の言葉を上下に振り分けて全体を示すことで、文章全体の構造を捉えやすくする。

心情グラフ

「キキとおばあさんのせりふを上下に振り分けている。」

発問の工夫「空中ブランコ乗りのキキ」（別役 実）

「キャッチコピー」という違った視点で考える中で、生徒の主体的な学習を引き出し、自然な内に文章の構造に迫るような展開を工夫する。

は、どんな気持ちだったのだろう。

この場面のタイトルをつけよう

「四回宙返りができるようになった時のキキの気持ちは？」

キキの四回宙返りを宣伝する看板のキャッチコピーや見出しを考えよう。

教材提示の工夫「世界一美しいぼくの村」（小林 豊）

- 「最後の一文」（その年の冬、村は戦争ではかいされ、今はもうありません。）を本時（第7時）で初めて提示する。
 - ・ 冒頭で書かれていた、「平和だった村」と対比することで、より一層戦争の悲惨さ、理不尽さを読み深めることができる。
 - ・ 最後に急展開する構成の効果を考えさせることができる。
 - ・ この結末に至るまでの伏線がどこにあったのか、予感があったのかを改めてこれまでの叙述に基づいて振り返らせ、この物語の構造に気付かせることができる。
- 結末の悲惨さを浮かびあがらせる役割を冒頭部分が担っている構成に気付くことができる 作品のしかけに気付く

1年から6年までの一貫した説明文指導の工夫

説明文指導を通して、発達段階に応じた6つの論理的思考力を育成する。

	(論理的思考力)	(文章表現の工夫)
6年間の系統化	1年 比較する力	「しごと」とそのための「つくり」を比べる
	2年 順序をたどる力	「はじめに」「つぎに」「こんどは」「さいごに」
	3年 類別する力	「～をまとめると…」 「…の特徴で分類」「たとえば」
	4年 原因や理由を求める力	「なぜですか。～です。」
	5年 定義づけする力	「～とは」
	6年 推理する力	「～ならば～でしょう。」

課題 小学校算数では「数学的な考え方」に課題

- 簡単な計算はできますが、「なぜ、そうなるのか」を文章で説明したり、公式の活用だけでは簡単に解決できない条件を付加された問題を解いたりする力が弱いと言えます。
- 問題を解く際に、筋道立てて思考する力が十分育っていないことが原因で、授業の中に児童が考えなければならない場面を設定し、考える時間を十分に確保することが大切です。

改善 課題の工夫で授業が変わる

覚えること・練習が中心の授業

目標にそった算数的な活動を通して考える授業

小学校5年生 算数「図形の面積」の授業から

学習指導要領では—

- (1) 基本的な平面図形の面積が計算で求められることへの理解を深め、面積を求めることができるようにする。
- ア 三角形及び平行四辺形の面積の求め方を考え、それらを用いること。
 - イ 円の面積の求め方を考え、それを用いること。

これは、「公式に数値を当てはめて、面積を求めるための計算ができる」だけの力を指しているのではなく、求積に必要な長さを自ら図形の中に見出し、公式を活用して面積を求める力までを指しています。

4年生で学習した「図形の面積」との違いは？

- 4年生では、正方形と長方形の求積でした。求積に必要な長さは、「たて」と「横」です。これは、どちらも図形の構成要素である辺です。
- 5年生では、「高さ」が必要になる図形をアつかいます。「高さ」は図形の構成要素ではないので、自分で見つけなければなりません。

授業づくりのポイント

「底辺」と「高さ」を自分で見つけ、面積を求められるような力をつける授業づくりを行う。

- ここでは、求積に必要な長さが図形の中から見出せるか、求積公式が使えるかが重要です。少々の測定ミスや小数は問題ではなく、答えは近似値で構いません。
- 小数の計算には、必要に応じて電卓を使用させることも配慮しましょう。

授業づくりの工夫

- 必要な長さを自分で実測させる課題設定
数値は与えない
- 多様な見方・考え方に気付かせる課題設定
提示する図形は不安定な位置

《問題》 次の図形の面積を求めなさい。必要な長さは、自分で測りましょう。面積を求めるために測った部分は、赤鉛筆でなぞり、長さをかきこんでおきましょう。

ここを底辺にすると、
ここが高さになるから・・・
 $3 \times 2 = 6$
でいいんだ！

こっちを底辺にすると、ここが高さになるから・・・
 $2.2 \times 2.7 = 5.94$
になったよ！

課題 中学校数学では「見方・考え方」に課題

計算技能や知識を問う問題においては、概ね満足できるが、「多様な答え（考え）を導き出す力」「数学的な見方や考え方をを用いて解決する力」「解決するまでの過程を記述する表現力」に課題が残されています。

改善 主体的な学習の場を設定することで授業が変わる

先生が説明し、生徒が聞いて理解し、練習する授業

生徒が考えたり説明したりする主体的な学習活動を取り入れた授業

導入課題の工夫

- 本時の授業の目標を達成するのに適したものであること。
- 日常生活に密着した、生徒にとって身近なものであること。
- 知的好奇心を喚起させるものであること。
- 多様な考えを引き出すことのできるものであること。

発問の工夫

先生と生徒の対話型の授業 + 生徒相互の対話による授業

- 1問1答の質問で進める授業
- 答えだけを発表させる授業

- 多様な考えを引き出す発問で進める授業
- 理由の説明させる授業

問題解決的な学習の重視

ア．自力解決の場（個人で学習する場）の設定

- 一人でじっくり考える時間を与える。
- 生徒の学習状況を把握し、個別指導にあたる。
- 発表の順番と次の集団解決の場の流れを組み立てる。

イ．集団解決の場（集団で学習する場）の設定

- 解決方法などについて、グループや全体で話し合い、考え方を確認したり、学習内容を理解したりして高めあう。
- 生徒の発表については、徐々に数学的な表現や論理的な説明ができるように指導する。

ウ．振り返る場の設定

- 授業の目標の達成度を自己評価や相互評価する場である。
- 学習内容、求め方・考え方などの学習方法、聞く態度や発表の仕方などの学習規律などについて振り返る。

集団解決の工夫例

右の図は12月のカレンダーです。四角に囲まれた九つの数の和を求めなさい

12月						
日	月	火	水	木	金	土
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

「数学的な考え方」を練り上げるための発問と組立て

C1 . $13 \times 3 + 20 \times 3 + 27 \times 3 = 180$ です。

T どのように考えたのか説明しましょう。

C1

T さんは、このように式を書いて求めました。どう考えたらこの式になるか説明してあげましょう。

C2 . 12,13,14の三つの数を考えて、14から1を引いて12にたすと13が三つになるので 13×3 にしたのだと思います。

(分からない生徒が3～4人いたので、他の生徒にも説明させ、全員が分かったことを確認する。)

T これらの数を横に見て考えたのですね。他の方法で考えてごらん。

(自力解決の時間を与える)

C3 . $19 \times 3 + 20 \times 3 + 21 \times 3 = 180$ です。

T どのように考えたのかな。

C3 私は、縦の並びを見て、C1さんと同じように考えました。

C4 真ん中の数20を基準に考えると $20 \times 9 = 180$ でも求められます。

課題 中学校英語では「内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力」に課題

自分の考えや意見などを論理的に書く力が、十分に身に付いていないことが、明らかになりました。生徒が、英語で自己表現をする場面を授業の中に設定することが大切です。

改善 受容型授業から発信型授業へ

聞いたり、読んだりして理解する授業

理解した内容を通して、自分の意見や考えを話したり書いたりする授業

授業づくりの工夫

- 生徒の書く意欲が高まるようなトピックの設定
 - 自己表現能力の育成をめざした段階的な指導
- 生徒に身近な話題を設定
書くことに慣れさせる工夫

授業例

Let's try!

クラスで、英語での卒業文集を作ることになりました。トピックは「10年後の自分」です。そんな卒業文集に、あなたの未来について書いてみましょう！

I'm going to talk about my future. I like baseball, so I want to be a professional baseball player in ten years. I practice baseball every day after school, because I want to be like Ichiro Suzuki. I hope I can give dreams to children like him.

Takao Yoshimura

指導の例

- 自由作文のように、生徒が自分の考えを英語で書けるようになるには、段階的・系統的な指導が必要である。
- 基礎的・基本的な知識を定着させるための「書き写し」のような活動に始まり、「制限作文」、そして、自己表現のための「自由作文」へと系統的に進む指導が大切である。

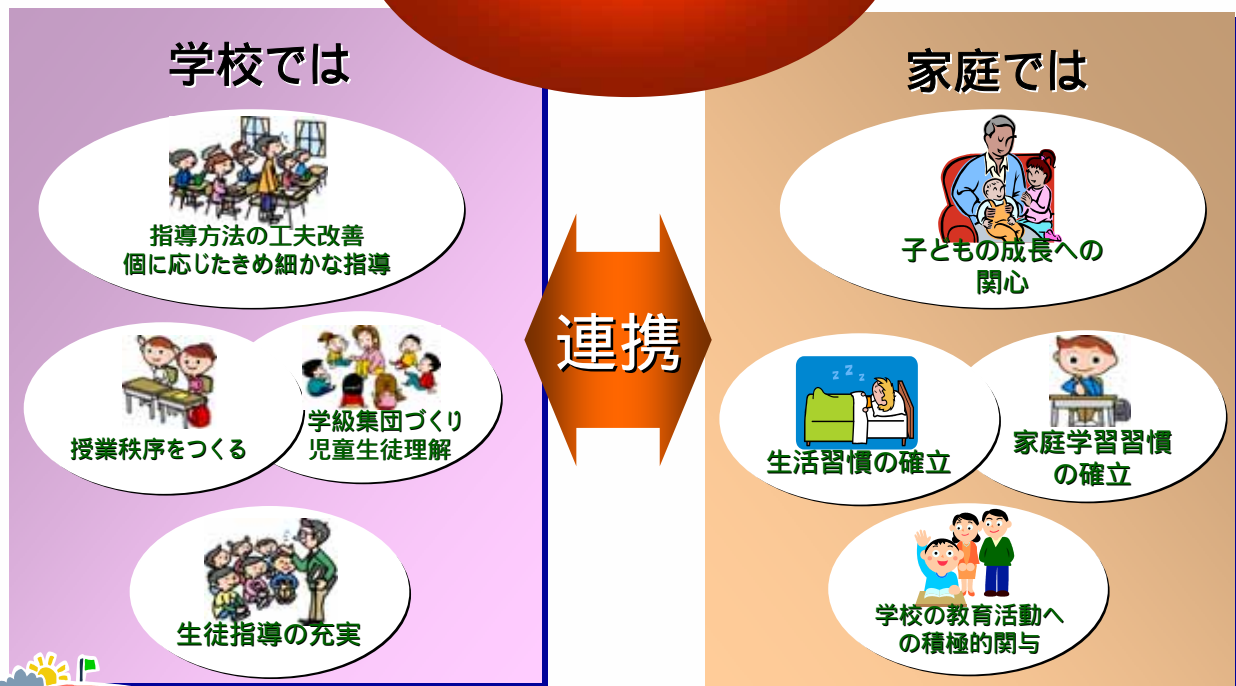
書き写し（基礎的・基本的な知識の定着）

制限作文（一定の枠付けの中で、書くこと、自己表現の訓練）

自由作文（書く力、自己表現能力を伸ばす）

成果をあげるための学校づくりのポイント

学力を総合的にとらえる



学校と家庭との連携

